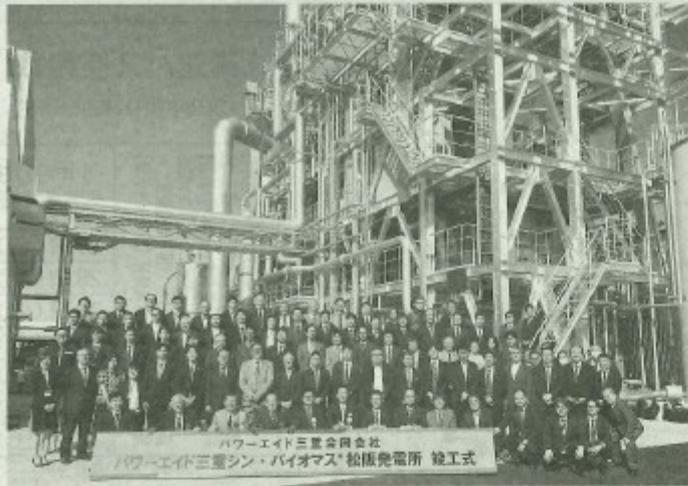


元気で躍進 地域経済

全国初、完全ノンフィット

パワーエイド
三重 シン・バイオマス発電所始動



パワーエイド三重合同会社
パワーエイド三重シン・バイオマス 松阪発電所 竣工式

パワーエイド三重合同 野町、西川弘純職務執行
会社(本社 松阪市小片 考)が松阪市木の郷町の

ウッドビテ松阪に建設したパワーエイド三重シン・バイオマス(松阪)発電所の竣工(しゅんこう)式が24日に開催され、約100人が参加した。同社は小片野町のバイオマス発電所・バイオマスパワーテクノロジーズ(松阪)と、多気郡多気町西山に三重きのこセンターを持つホクト(株)(本社 長野市)など6社で構成。同センターから出る使用済み培地(廃菌床)を主燃料として、元環境大臣の原田義昭・元衆議院議員、竹上真人市長、ウッドビテ松阪協同組合理事長の田中善彦・松阪商工会議所会

とした日本初の完全Non-Fit型発電所だ。Non-FitとはFIT(固定価格買取制度)を利用しない再生可能エネルギーのこと。シン・バイオマス(松阪)発電所は、廃菌床に、中部圏一円で排出されるリサイクル木材チップとRPF(プラスチック系廃棄物と古紙を混ぜて固めた物)を混ぜた燃料を燃やして発電。つくった電気はホクトが買い取る。

総事業費は約26億円で、2021(令和3)年7月に同社を設立、一昨年7月に着工し、今年3月16日に運転を始めた。発電量は1時間当たり1900kWh。

この日は神事に続いて、元環境大臣の原田義昭・元衆議院議員、竹上真人市長、ウッドビテ松阪協同組合理事長の田中善彦・松阪商工会議所会

頭、西元樹・柳みずほ銀行大阪法人第一部長、西山剛史・柳タクマ副社長執行役員が代わる代わる祝辞。原田さんは「少し前に環境大臣をしていた立場からすると心から感謝と御礼を。きのこセンターから出る廃菌床を有効利用する完全Non-Fitのクリーン電力」とたたえた。

北角さんは、バイオメーカーのタクマ(本社 兵庫県尼崎市)からBPTの西川幸成代表取締役会長COO(59)が打診を受けてプロジェクトが始動した経緯を振り返り、西川職務執行者は再生可能エネルギーの発電所は国民に再エネ賦課金の負担をかける。次のステップとして完全Non-Fitという形で、国民負担に依存しない発電所の運営、持続可能なエネルギーをつくっていく必要がある。その第一歩と力を込めた。

完全NON-FIT型発電所が稼働

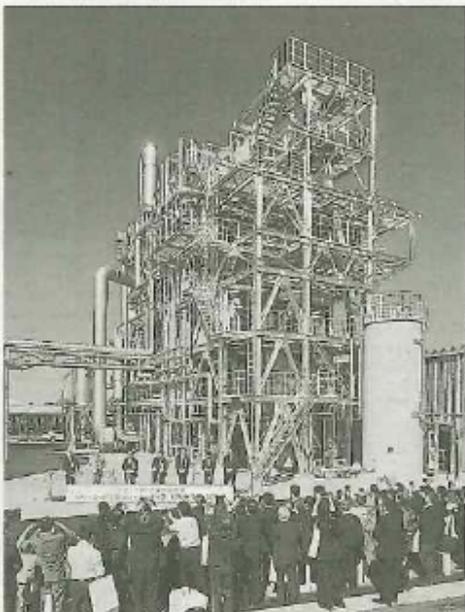
燃料は廃菌床、リサイクル木材チップ、RPF

バイオマスパワーテクノロジーズ

バイオマスパワーテクノロジーズ（固形燃料）を使用しており、4月24日には関係者らが参加して竣工式を実施した。

BPTグループは、両社と林業の玉木材（奈良県五條市）、再生可能エネルギーコンサルティングのインテグリティエナジー（大阪府枚方市）で構成され、グループ従業員は30人。2018年に、

燃料は廃菌床（使用済培地）、リサイクル木材チップ、RPF（産業廃棄物が原料の



4月24日に竣工式を開いた

所（同1990kW）を設置。北角社長は、隣地で未利用材や一般木材を燃料とする三重エネウッド（松阪市）松阪木質バイオマス発電所（同5880kW）の立ち上げ（14年）にもかかわらずおり、両発電所の稼働で山から出る森林資源の全量を活用できるようになったという。

PAM（総事業費約26億円）は同社グループのFITに頼らない

次世代型発電事業の第一弾で、脱FIT＝国民負担なしで脱炭素の取り組みを加速させる。ポイラーはタクマ製で、ホクト（長野市）の三重きのこセンター（三重県多気町）の廃菌床ほかを年間約2万7000ト使用し、同1647万kWhの電力を生産。生産した電力は、同センターに供給する。

竣工式で北角BPT社長は「私たちはこれ

からも発電ベンチャー、林業ベンチャーとしてのマイノリティを持ち続けていく」と語った。また、西川浩純BPT専務は「原材料集荷に制約のない完全NON-FIT型発電所で持続可能なエネルギーを作り、地域雇用にも貢献していく。今後はPAMを安定稼働させ、地区外でも完全NON-FIT型発電所を複数展開したい」と話している。

完全NON-FIT型の松阪発電所を竣工

パワーエイド 三重合同会社 廃菌床やRPFなど年2万8000t活用

パワーエイド三重合同会社(三重県松阪市、職務執行者・西川弘純氏)は4月24日、木材コンビナートのウッドピア松阪(同市)内において「パワーエイド三重シン・バイオマス®松阪発電所」の竣工式を開いた。来賓として



北角強社長



西川弘純専務

元環境大臣の原田義昭氏や竹上真人松阪市長の他、計画・建設に携わった関係者ら約120人が完成を祝った。同発電所は、三重県多気町にあるホクトの三重きのこセンターから排出される廃菌床をはじめとする、主に中

部圏から排出される木材・製造業生産副産物の他、RPF等を混焼し発電を行う施設だ。燃料の総量は年間約2万8000tで、内訳は廃菌床・木材チップ等が85%、RPFが15%とした。発電出力は1990^{キロワット}。タクマ製のトラベリンクストリーカボイラーを採用した。総事業費は約26億円に上る。

BPT(バイオマスパワーテクノロジー)所

松阪発電所の竣工に多くの関係者らが集った



ズグループは、三重エネウッド(同市、西川幸成社長)が2014年に日本で3番目に稼働したFIT対応発電所(出力5800^{キロワット})

理由難な未利用材や一般木材、建築廃材など多様な資源を有効活用してきた。3号機目となるシン・バイオマス®松阪発電所では、

に携わった知見を生かし、18年に出力1990^{キロワット}の小規模分散型・FIT対応の第2号機を立ち上げ、運転を開始。三重エネウッドでは使用しづらいパルクなどの処

ホクトから供給される廃菌床といった製造業の生産活動に伴う副産物を生かし、グリーン電力として循環させる「インターナルカーボンサーキュレーションシステム」を構築する完全NON-FIT型事業での発電に挑む。竣工式では、BPTの北角強社長と西川弘純専務が来賓・関係者に対し謝辞を述べ、「FIT制度に頼らず、国民負担に依存しない持続可能なエネルギーをつくる第一歩とし、再エネ拡大に向けてまい進していきたい」と語った。